



## 「動員」の結果としての政治参加



## Aschの同調行動の実験

- 齊藤勇編 1987, 『対人社会心理学重要研究集 I 社会的勢力と集団組織の心理』誠信書房.
- Asch, S. E. “Effects of Group Pressure upon the Modification and Distortion of Judgements.” In H. Guetzkow, ed., *Groups, Leadership and Men*. Carnegi Press, 1951.



## 同調しない人のタイプ

- 自信型
  - グループを意識して、葛藤が大きい
- 自立型
  - 「自分は自分」という主義に従う
- 忠実型
  - 葛藤も大きい、業務に忠実



## 同調した人のタイプ

- 認知変更型
  - 多数と同じように見えてしまう
- 判断変更型
  - 自信のなさから多数が正しいと信じる
- 行動変更型
  - 多数とは違って見えるし、多数が間違っていると判断しながら、行動で同調



## Aschの同調行動:なぜ同調するのか

- 社会化論的説明
  - 個人の側から—真実を求め、「正しくありたい」と欲するので、他人の見解を受け入れる。
  - 集団の側から—集団としての力をその成員に行使し、逸脱を抑制したい。そして、集団目標の達成と環境への適応を図る
- 葛藤の回避
  - 集団から逸脱することから生じる葛藤の回避
- 「同調 = 集団を安定性に導く過程」と定義可



## 社会心理学的な知見:政治行動への応用

- 他者の存在を無視するわけにはいかない
- 世論調査による研究が盛んとなる
  - 個人についての詳しいデータが豊富
  - 個人レベルでの緻密なモデルの検討が可能
  - 個人のおかれている「環境」を軽視する傾向
- 「環境」の役割の再評価
- 「環境」としての「他者の存在」の影響に注目



### 援助行為についての研究

- Latane, Bibb; and Darley, John M. 1970. *The Unresponsive Bystander: Why doesn't He Help?* Englewood Cliffs: Prentice Hall.
- B. ラタネ・J. M. ダーリー 1977, 『冷淡な傍観者』竹村研一・杉崎和子訳 プレーン出版 1977年.

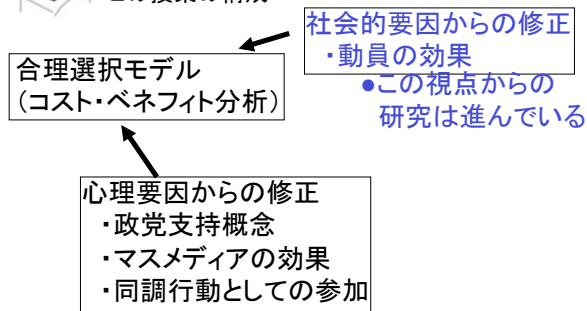


### L&Dの検討: 介入のパラドックス

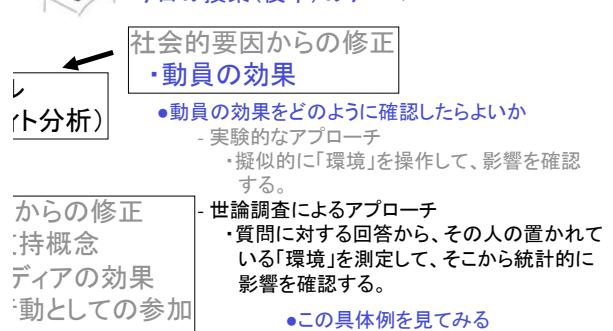
- 「人数が多ければ、誰かが助けるだろう」
- じつは、他人がいることで、そして他人が多いほど、介入の各ステップで逆の効果
- 見られていることの逆効果
  - 行動を抑制、気づくのが遅れる、「おせっかい」と思われたくない
- 見ていることの逆効果
  - 手本を他人に求める。他人が冷静なのだから、慌てる必要なしとの判断



### 政治参加の説明モデルの精緻化: この授業の構成



### 政治参加の説明モデルの精緻化: 今日の授業(後半)のテーマ



### 動員効果についての研究

- Rosenstone, Steven J. and John M. Hansen. 1993. *Mobilization, Participation, and Democracy in America*. New York: Macmillan.
  - 西澤由隆 1995. 「アメリカにおける政治参加のパズル」 *Mobilization, Participation, and Democracy in America* by Steven J. Rosenstone and John Mark Hansen 『レヴァイアサン』17号.
- 三宅一郎・西澤由隆 1997. 「日本の投票参加モデル」綿貫譲治・三宅一郎『環境変動と態度変容』木鐸社 所収.



### 従来の投票参加モデルへの修正

- 環境要因の追加

